

龍源寺報

令和元年 秋彼岸号

臨濟宗・妙心寺派	住職 松原信樹
佛母寺住職 松原樹	正福寺住職 松原行
TEL	3451-1853
FAX	3451-6094

振込 00160-0-104918 東京都港区三田5丁目9-23 (郵便番号 108-0073)

Email: info@ryugenji.com URL: http://www.ryugenji.com

秋彼岸におもう

松原 信樹

お盆休みも終わり、会社勤めも再開した。休みが明け、憂鬱な気分になる人も多いと巷では聞く。けれども、どのような仕事でも、それが社会の中で機能を果たしているものであるかぎり、社会の中で成立した根拠を持っているものであり、しかも、求められているものだからこそ成立している。だから、休みが明け、憂鬱な気分になるあなたは、社会にとって大切な人財なのです。

三才の子供と生活をしていてつくづく思うのは、どこかに正しい叱り方、正しいしつけ方といったものが存在していて、それを親である自分には知らなくて、専門家は知っているということ。また、子供のしたことを評価するかしないかによって、子供のある傾向を助長したりしなかったりするということ。これら二つは、いったいどういうことなんだろうとつくづく思っている。なぜなら、人間に対する接し方というのは、人それぞれだし、前提とすること、カテゴリーをすることができないものだから。そのように育てられた子供が年を重ねて社会に出るようになり、学問を積み、智慧を磨き、教養を高め、どのような場所に

でも通用する人間へと導かれていく。その一方、人間が本来持っている素朴な自己はどこかにいつてしまうのではないだろうか。

本質を求め、一人で懸命に学問や芸術に精進する人もいれば、他人との対応において自分の利益や利口さを示し、うわつらな広がりの中に気を散らして生き、真剣に目の前の事柄に向き合わず、不特定多数の中に紛れ込んで、無責任に暮らすようになった人々が多くなった今、人間が本来持っている素朴な自己を見つめる機会が必要だとおもう。

日本には、静かな雰囲気のためたずまいの寺社が多いし、龍源寺もできればそうなるように努力している。特に名利の禅寺の本堂や庭園を訪ねれば、誰もが身の引き締まる清々しい思いがするであろう。それは、人間の心の根底に潜む無や空の場所に、瞬間とはいえ、だれもがそこで、無や空を体験し、蘇生するような新鮮さを味わうことができるからである。こうした時間は、人間には絶対に必要である。鈴木大拙は、「無心こそは、真実と向き合う瞬間なのである」という。また、道元は、「自己を習うことは、自己を忘れること、そして自己を忘れることは、万法に証されること」ともいう。

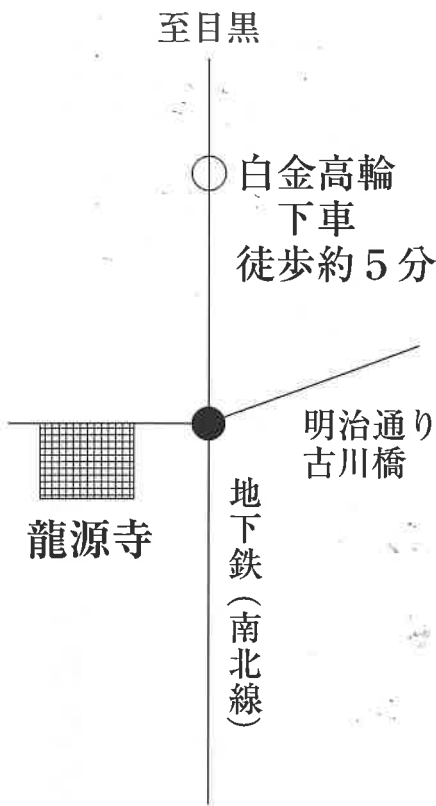
これからも、仏道に励み毎月の坐禅会を大切にしていきたいと思えます。

ご 寄 付

百万円也 匿名殿

ありがとうございました

※大変貴重なご寄付をありがとうございました。
龍源寺の周囲も再開発が予定されています。
お寺を地域の文化資源の一つとして考え、
先代から引き続き、境内整備に力を注いで
参りたいと思います。未熟者ですが、今後
とも宜しくお願い申し上げます。
(信樹)



秋ひがん法要

一、九月二十三日・秋分の日(午前十一時より)

一、法話

一、齋座(おとき)

・ご家族そろってお参りください。

・駐車場はありません。南北線をご利用ください。

龍源寺への交通の便(地下鉄)

● 都営三田線

(目黒または三田、南北線は白金高輪駅下車。徒歩五分)

● 2番出口から地上に出ると案内看板に「龍源寺」名あり

龍源寺への交通の便(都バス)

● 田 87 渋谷駅ー田町駅 魚ラン坂下下車

● 都 06 渋谷駅ー新橋駅 古川橋下車

● 品 97 品川駅ー新宿駅西口 魚ラン坂下・古川橋下車

● 反 96 五反田駅ー品川駅ー六本木ヒルズ(循環)

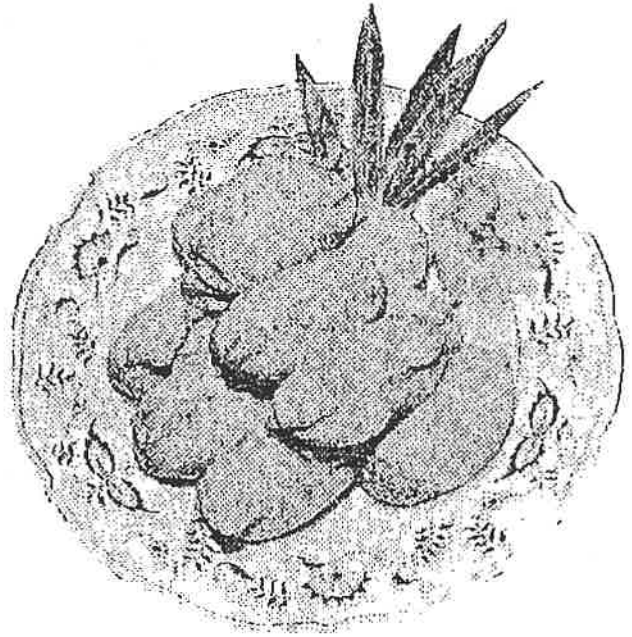
魚ラン坂下・古川橋下車

● 東 98 東京駅丸の内南口ー目黒駅 魚ラン坂下下車

味覚歳時記

いなりずし

松原静子



わたくしの寺では、毎年、春と秋のお彼岸に、おいなりさんを二千個以上作り、お参りにいらした方に、食べていただいています。

どこのご家庭でも、よく作られると思いますが、今回は^{ゆず}柚を使つたおいなりさんをご紹介しますよ

う。

まず、油アゲ・十枚を二つに切り、お湯で油抜きしたあと、水・カップ一杯半、酒・カップ $\frac{1}{3}$ で十分間、煮ます。そして、砂糖・カップ $\frac{1}{3}$ 、ミリン少々を入れ、さらに十分間煮たあと、しょう油をカップ $\frac{1}{4}$ 入れ、二十分間、煮てください。

すし飯は、米・三合でしたら、酢・カップ $\frac{1}{3}$ 、柚のしぼり汁少々、砂糖・大サジ一杯、塩・小サジ一杯を煮たてて、熱いご飯と、よく混ぜます。そして、柚の皮のみじん切りも加えてください。

油アゲには、ご飯を少なめに入れたほうが、形もよく、食べやすいですね。

柳 緑

花 紅

お盆の行事が終わり、早いもので、秋彼岸会を迎えます。皆さまいかがお過ごしでしょうか。松原泰道・志

年になりました。遺された原稿や墨蹟を整理し、後世に残すようにしています。このようなことをさせていただくのも、弟子の仕事の一つ。先代、先々代のようには、なかなかありませんが、日々精進してまいりたいと思います。▼本堂の改修工事が終わり一年になります。エレベーターが導入され、法要準備の荷物の上げ下げなども大変便利になりました。法要の際、二階が本堂ですが、皆さま安心して御来山ください。御寄付をいただいた皆さまに厚く御礼申し上げます。引き続き、境内整備を行って参りたいと思います。未熟者ですが、宜しくお願い申し上げます。▼生前、雑誌・「マミール」に掲載された祖母・志ずの「味覚歳時記」をしばらくの間、掲載させていただきたいと思えます。初回は、「いなりずし」。今は、ちらし寿司ですが、以前は、

春・秋の両彼岸の御齋に、いなりずしを作っていたようですね。なつかしい料理の数々です。ご高覧ください。▼八月の後半は、北軽井沢の日月庵坐禅堂にて、倒木片付けや布団干しなど、作務の毎日を送っております。滞在中、浅間山の噴火もありましたが、八月末には、トンボも舞い、一足早い秋の気配を感じておりました。軽井沢は夏もいいですが、秋がおすすめです。▼母は膝の調子が悪く、階段を上るのもつらい様子。茶道の指導民生委員と龍源寺の仕事、そして実母の介護と毎日忙しくしています。百二になる祖母も、八月に熱中症のような状態になりましたが、元気にしております。長寿の秘訣は、今までに色々なことがありましたが、ストレスを貯めなかったことだと母は申しております。妻の亜矢は、娘の教育に熱心になっております。夏は、松戸の実家に娘と一緒に戻り親孝行をしてきたとか。義理の両親も大変喜んでいました。三歳の娘の瑞樹は、七月の盂蘭盆会では、お経が心地よかったのか途中寝てしまいましたが、沙弥衣という

お衣を着て、お母さんと一緒に法要に参加しました。「般若心経」も読めるようになりました。言葉の習得の速さに日々驚かされます。▼千葉・佛母寺の弟・覚樹も夏に・娘二人とともに、龍源寺に里帰りをしていました。本年中に本を出版することのこと。大変嬉しく思います。戸塚・正福寺の弟は、円覚寺の本山の仕事と正福寺の仕事に邁進しているとのこと。皆、それぞれ、がんばっているようです。▼十月は、法要の他に野火止・平林寺での授戒会、企業・学校の坐禅会。又、『般若心経』の原稿執筆。テーマにしている禅僧の訳注作業など多々ありますが、体調に気をつけて日々を暮らしていきたいと思えます。年をとるにつれて、テキストに対する読みが味わい深いものとなっています。▼九月二十二日、十三時より、ちらし寿司のお野菜の刻みを致します。お手伝いいただける方、宜しくお願い申し上げます。九月二十三日、秋彼岸会でお会いできることを楽しみにしております。ご家族でお参りください。

(信樹)